

慢性肺疾患の管理に関する研究

－ 1990年出生児についての調査補遺－

(分担研究：ハイリスク児の管理に関する研究)

分担研究者 小川 雄之亮
研究協力者 江口 秀史

要約：慢性肺疾患の暫定基準、病型分類でVI型と分類された66例を再調査し、33例は非慢性肺疾患、残りの33例はI～V型のいずれかに再分類した。長期入院例の追跡調査では、18例中5例がその後死亡し、5例は2年後の現在も入院中であった。また、9施設でのパイロット調査で、81例のCLDのうち40例が修正37週の時点でも酸素投与を必要としていた。

見出し語：慢性肺疾患、病型分類、予後

研究目的：

前年度までの心身障害研究で集積されたデータの解析により、わが国における1990年出生児の慢性肺疾患の疫学を完全なものとするため、補完調査を行った。

研究方法：

これまでのデータで分類不能（VI型）と診断された66例の個別の詳細なデータを再収集して分析し、再分類を行った。また、前回調査時（1992年10～12月）入院中であった18例の追跡調査を行った。

一方、班員の属する9施設のCLD例計81例を抽出し、胎齢37週に達した時点での酸素投与の要否を調査した。

研究成績：

1990年出生児のCLD例でVI型と分類された66例の個別再調査の結果、半数の33例は診断基準に合致せず、非CLDと判定された。また、残りの33例は表1のごとく、I～V型のいずれかに分類された。

1992年10～12月の調査時点で入院中であった18例のその後の予後調査では、表2のごとく生存退院が8例、死亡が5例で、残りの5例は2年たった現在もなお入院中であった。

胎齢37週の時点での酸素投与の有無についての成績は表3のごとく、81例中40例（49.4%）が酸素投与を必要としており、Ⅲ、Ⅳ型で特に頻度が高かった。

考 察：

CLDの診断になお誤解があり、非CLDが病型分類不能のⅥ型に分類されていた。また、出生直前の子宮内急性感染症のI gM高値となる子宮内感染症を同じ先行疾患としてⅢ型に分類してよいか否か、子宮内感染の先行が明らかでかつ非典型的胸部X線像を呈する例をⅤ型に分類すべきか否か、の問題が提起された。今後はⅡⅠ型、Ⅴ型を細分して分類してみる必要があるかもしれない。

CLDの発症が未熟性に大きく影響されることから、胎齢が満期相当となった時点で酸素投与を必要とする例をCLDと診断すべきとの考えも報告されているので、9施設の例で調査したが、暫定基準でCLDと診断された例のい半数が37週の時点で酸素投与を必要としていた。しかし出生時体重とは明らかな関係は認めず、Ⅲ型とⅣ型に頻度が比較的高かったのは興味深い。すなわち、RDS非先行型のCLDがより長期の酸素投与を要することが示された。これには人工

肺サーファクタント補充療法の有無が関与しているのかも知れない。

結 語：

1990年出生例の慢性肺疾患罹患児について補完調査を行い、以下の成績を得た。

- 1) 分類不能とされていた例の半数は慢性肺疾患に該当せず、診断基準の徹底が必要である。
- 2) 暫定病型分類Ⅲ型とⅤ型の解釈にやや問題があり、それらをさらに2分して分類する必要があるかもしれない。例：Ⅲa；I gM高値例、Ⅲb；出生時の急性感染症、Ⅴc；その他。
- 3) 2年以上の入院が5例もあり、Ⅲ、Ⅴ型に問題が多い。
- 4) 胎齢37週で要酸素投与はⅢ、Ⅳ型に多く、出生体重とは相関しない。
- 5) わが国の慢性肺疾患の実態が、世界に先駆けて明らかにされた。本調査結果を基に管理、予防対策の確立に向けての研究が待たれる。

表1 IV型例の個別再検討と再分類

新分類	I	II	III	IV	V	非CLD	計
例数	2	6	9	3	13	33	66

表2 長期入院慢性肺疾患例の予後

表2 長期入院慢性肺疾患例の予後
(出生後1年で入院中であつた例の満2年時の予後)

	I	II	III	IV	V	計
死亡	1	1	1	1	1	5
退院	4	1	2*	0	1	8
入院中	1	0	1	0	3	5
計	6	2	4	1	5	18

*III型退院例の内1例はHOT施行中
入院中の内I, V型各1例は酸素投与せず
(但しV型の1例は気切あり)

表3 慢性肺疾患の胎齡37週0日の時点での酸素投与続行例
(班員の属する9施設の1990年出生のCLD児を対象)

	厚生省研究班暫定基準	修正37週酸素投与例
-500g	2	0 (0%)
-600g	4	1 (25.0%)
-700g	10	6 (60.0%)
-800g	12	6 (50.0%)
-900g	18	7 (38.9%)
-1000g	11	8 (72.7%)
-1250g	15	8 (53.3%)
-1500g	6	1 (16.7%)
-1750g	2	2 (100.0%)
-2000g	1	1 (100.0%)
I	14	5 (35.7%)
II	28	14 (50.0%)
III	11	7 (63.6%)
IV	13	8 (61.5%)
V	15	6 (40.0%)
計	81	40 (49.4%)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:慢性肺疾患の暫定基準、病型分類で 型と分類された 66 例を再調査し、33 例は非慢性肺疾患、残りの 33 例は ~ 型のいずれかに再分類した。長期入院例の追跡調査では、18 例中 5 例がその後死亡し、5 例は 2 年後の現在も入院中であった。また、9 施設でのパイロット調査で、81 例の CLD のうち 40 例が修正 37 週の時点でも酸素投与を必要としていた。